

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2003-164245

(43)Date of publication of application : 10.06.2003

(51)Int.Cl.

A01K 97/06

(21)Application number : 2001-368091

(71)Applicant : YONEPURA:KK

(22)Date of filing : 03.12.2001

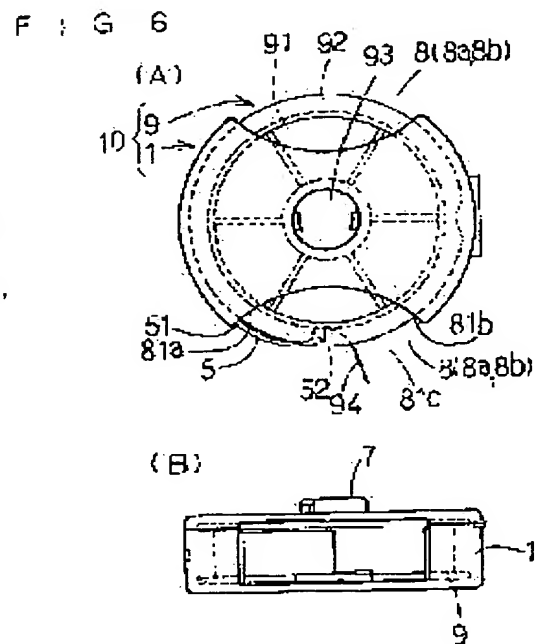
(72)Inventor : YONEDA YOSHIHARU

## (54) SPOOL STORAGE CASES AND SPOOL IN CASE

## (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a spool storage case and a spool in a case, which solve problems that a fishing line is removed from a spool and a case and the removed fishing line is entangled and which are readily used.

**SOLUTION:** Since a fishing line 94 wound on the spool 9 is pressed by a pressing piece 5 attached to the case 1, the fishing line 94 is not removed from the spool 9. Thus, the fishing line 94 is not entangled. The spool 9 can be rotated by the hands by an opening part 8 in the case 1. Consequently, the readily usable spool storage case 1 and the spool 10 in the case can be provided.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

27.08.2004

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号  
特開2003-164245  
(P2003-164245A)

(43)公開日 平成15年6月10日(2003.6.10)

(51)Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テーマコード*(参考)
A 0 1 K 97/06	5 0 2	A 0 1 K 97/06	5 0 2 2 B 1 0 9

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全 9 頁)

(21)出願番号 特願2001-368091(P2001-368091)

(22)出願日 平成13年12月3日(2001.12.3)

(71)出願人 392013187

株式会社ヨネブラ

大阪府大阪市平野区加美北4丁目5番6号

(72)発明者 米田 佳治

大阪府大阪市平野区加美北4丁目5番6号

株式会社ヨネブラ内

(74)代理人 100086346

弁理士 鮫島 武信

Fターム(参考) 2B109 BA10

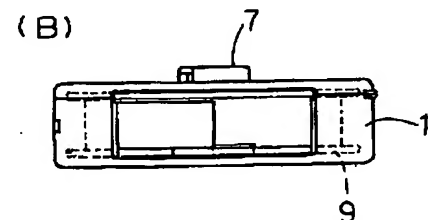
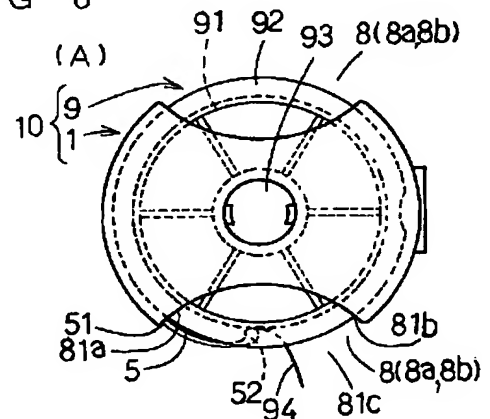
(54)【発明の名称】 スプール収納ケース及びケース入りのスプール

(57)【要約】

【課題】 釣り糸がスプールやケースから外れてしまい、その外れた釣り糸がもつれてしまうようなことを解決し、又、使いやすいスプール収納ケース及びケース入リスプールを提供することを課題とする。

【解決手段】 ケース1に設けられる押圧片5により、スプール9に巻きつけられた糸94が押圧されているため、糸94がスプール9から外れてしまうことがなく、それにより糸94がもつれてしまうことがない。又、ケース1に開口部8が設けられていることにより、スプール9を手で回転させることができる。これらにより、使いやすいスプール収納ケース1及びケース入リスプール10を提供することができる。

F I G 6



**【特許請求の範囲】**

【請求項1】 内部にスプール(9)を回動可能に収納することができる空間(4)を有し、上記空間(4)から外部方向へスプール(9)に巻かれた糸(94)を引き出し口(8a)から引き出すことのできる、スプール収納ケース(1)において、

このスプール収納ケース(1)の一部に、上記空間(4)の方向に向かって形成される、弾性片よりなる押圧片(5)が備えられ、この押圧片(5)が、上記空間(4)に収納されたスプール(9)に巻かれた糸(94)を押圧することを特徴とする、スプール収納ケース。

【請求項2】 上記スプール収納ケース(1)は、スプール(9)がスプール収納ケース(1)の外部に対して露出される、少なくとも1箇所の開口部(8)を有するものであり、上記開口部(8)から露出した状態のスプール(9)の一部に触れることにより、スプール(9)を回動させることができることを特徴とする、請求項1に記載のスプール収納ケース。

【請求項3】 上記スプール収納ケース(1)は、凹部あるいは凸部からなる第1係合部(6)を外部に有するものであり、この第1係合部(6)に対して係合可能な形状である第2係合部(7)が、上記スプール収納ケース(1)あるいは、上記スプール収納ケース(1)とは別に形成される連結体の外部に形成されるものであり、上記の第1係合部(6)と第2係合部(7)とを係合させることにより、一方のスプール収納ケース(1)と他方のスプール収納ケース(1)とを直接あるいは上記の連結体を介して連結可能であることを特徴とする、請求項1又は2に記載のスプール収納ケース。

【請求項4】 スプール収納ケース(1)内に形成される空間(4)にスプール(9)が回動可能に保持して収納され、スプール収納ケース(1)の外部方向へスプール(9)に巻かれた糸(94)を引き出すことのできる、ケース入りスプール(10)において、上記スプール収納ケース(1)は、湾曲した側面(2a, 3a)と、この側面(2a, 3a)の両端辺に接する端面(2b, 3b)とを有する扁平な略円筒体であり、

上記スプール(9)は、扁平な円筒体(91)の両端部分に、円筒体(91)の直径よりも大きい直径を有する円盤であるフランジ(92)が設けられ、

上記スプール収納ケース(1)は、スプール(9)がスプール収納ケース(1)の外部に対して露出される、側面開口部(8a)と、端面開口部(8b)とを有するものであり、この側面開口部(8a)は上記側面(2a, 3a)の一部に形成され糸の引き出し口となり、端面開口部(8b)は上記端面(2b, 3b)の一部に形成されるものであり、

上記スプール収納ケース(1)の一部には、帯状の弾性

片よりなる押圧片(5)が備えられ、押圧片(5)の幅は、上記スプール(9)のフランジ(92)間の内寸法よりも小さいものであり、押圧片(5)の基端部(51)はスプール収納ケース(1)の側面(2a, 3a)に位置するものであり、押圧片(5)の先端部(52)は、スプール収納ケース(1)の側面(2a, 3a)の持つ曲率よりも大きな曲率で湾曲することにより、スプール(9)のフランジ(92)間に入り込むように位置し、この押圧片(5)が、スプール(9)に巻かれた糸(94)を押圧することを特徴とするケース入りスプール。

**【発明の詳細な説明】****【0001】**

【発明の属する技術分野】本願発明は、釣り糸等の糸を巻くためのスプールを収納することのできるスプール収納ケース及びケース入りスプールに関するものである。

**【0002】**

【従来の技術】釣りに使用される釣り糸は、通常スプールと呼ばれる糸巻きに巻かれた状態で販売及び使用がなされる。このスプールは、扁平な円筒体の両端面の部分に、円筒体の直径よりも大きい直径を有する円盤であるフランジが設けられるものであり、釣り糸は、この円筒体の側面とフランジにより形成される空間に巻きつけられて収納される。従来から、このスプールには釣り糸が外れてしまわないように、釣り糸を留めておく切り込み等の係止手段が設けられている。又、このスプールがケース内に収められて使用される場合は、ケースに同様の係止手段が設けられていることもある。

**【0003】**

【発明が解決しようとする課題】ところが、釣りをする人が上記のスプールあるいはケースをポケット等に入れたまま激しく動いた場合、留められていた釣り糸がスプールやケースから外れてしまい、場合によっては、その外れた釣り糸がもつれてしまうようなことがあった。本願発明はこのことを解決するものであり、又、使いやすいスプール収納ケース及びケース入りスプールを提供することを課題とする。

**【0004】**

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決するために、本願第1の発明においては、内部にスプール9を回動可能に収納することができる空間4を有し、上記空間4から外部方向へスプール9に巻かれた糸94を引き出し口8aから引き出すことのできる、スプール収納ケース1において、このスプール収納ケース1の一部に、上記空間4の方向に向かって形成される、弾性片よりなる押圧片5が備えられ、この押圧片5が、上記空間4に収納されたスプール9に巻かれた糸94を押圧することを特徴とする、スプール収納ケースを提供する。

【0005】又、本願第2の発明においては、第1の発明において、上記スプール収納ケース1は、スプール9

がスプール収納ケース 1 の外部に対して露出される、少なくとも 1 箇所の開口部 8 を有するものであり、上記開口部 8 から露出した状態のスプール 9 の一部に触れることにより、スプール 9 を回動させることができることを特徴とするスプール収納ケースを提供する。

【0006】又、本願第 3 の発明においては、第 1 又は第 2 の発明において、上記スプール収納ケース 1 は、凹部あるいは凸部からなる第 1 係合部 6 を外部に有するものであり、この第 1 係合部 6 に対して係合可能な形状である第 2 係合部 7 が、上記スプール収納ケース 1 あるいは、上記スプール収納ケース 1 とは別に形成される連結体の外部に形成されるものであり、上記の第 1 係合部 6 と第 2 係合部 7 とを係合させることにより、一方のスプール収納ケース 1 と他方のスプール収納ケース 1 とを直接あるいは上記の連結体を介して連結可能であることを特徴とするスプール収納ケースを提供する。

【0007】又、本願第 4 の発明においては、スプール収納ケース 1 内に形成される空間 4 にスプール 9 が回動可能に保持して収納され、スプール収納ケース 1 の外部方向へスプール 9 に巻かれた糸 9 4 を引き出すことのできる、ケース入りスプール 10 において、上記スプール収納ケース 1 は、湾曲した側面 2 a、3 a と、この側面 2 a、3 a の両端辺に接する端面 2 b、3 b とを有する扁平な略円筒体であり、上記スプール 9 は、扁平な円筒体 9 1 の両端部分に、円筒体 9 1 の直径よりも大きい直径を有する円盤であるフランジ 9 2 が設けられ、上記スプール収納ケース 1 は、スプール 9 がスプール収納ケース 1 の外部に対して露出される、側面開口部 8 a と、端面開口部 8 b とを有するものであり、この側面開口部 8 a は上記側面 2 a、3 a の一部に形成され糸の引き出し口となり、端面開口部 8 b は上記端面 2 b、3 b の一部に形成されるものであり、上記スプール収納ケース 1 の一部には、帯状の弾性片よりなる押圧片 5 が備えられ、押圧片 5 の幅は、上記スプール 9 のフランジ 9 2 間の内寸法よりも小さいものであり、押圧片 5 の基端部 5 1 はスプール収納ケース 1 の側面 2 a、3 a に位置するものであり、押圧片 5 の先端部 5 2 は、スプール収納ケース 1 の側面 2 a、3 a の持つ曲率よりも大きな曲率で湾曲することにより、スプール 9 のフランジ 9 2 間に入り込むように位置し、この押圧片 5 が、スプール 9 に巻かれた糸 9 4 を押圧することを特徴とするケース入りスプールを提供する。

【0008】

【発明の実施の形態】以下、図面に基づき本願発明の実施の形態の一例をあげて説明する。図 1～図 3 は、本例のスプール収納ケースを各方向から見た外形図であり、図 4 は断面図である。

【0009】本例のスプール収納ケース 1（以下ケースと称する）は樹脂成型品であり、外観は扁平な略円筒体で、開口部 8 として周囲の一部が切り欠かれたものであ

る。このケース 1 は、内部に釣り糸 9 4 を巻くためのスプール 9 を収納する空間部 4 を有するものであって、本体部 2 と蓋部 3 とに分かれており、蓋部 3 を開けることにより、空間部 4 に収納されたスプール 9 を取り出すことが可能となっている。本体部 2 と蓋部 3 には、それぞれ一定の曲率を持つ側面 2 a、3 a と、その側面 2 a、3 a と直交するようにして位置する端面 2 b、3 b とを有する。尚、この本体部 2 と蓋部 3 の大きさは同じであっても良い。又、蓋部 3 の方が大きくても良く、大きさに関して主従は問わないものである。又、このケース 1 は透明のものであっても不透明のものであっても良い。透明なもの場合は、内部の空間部 4 に収納されているスプール 9 が外部から目視でき、釣り糸 9 4 の残量が確認できるメリットがあり、又、不透明なもの場合は、様々な着色したり模様を描くことができ、デザイン上目立つものとしてすることができるメリットがある。

【0010】本例のケース 1 においては、本体部 2 と蓋部 3 とが一体に成型されるものである。又、上記両者 2、3 をつなぐ部分として共に形成されるヒンジ 1 1 は、要部拡大断面図である図 5 に示されるように、本体部 2 と蓋部 3 のそれぞれから延長されて形成される部分であって、本体部 2 と蓋部 3 とのちょうど中間において、折目溝 1 1 a が一方に形成されており、この折目溝 1 1 a を境にしてヒンジ 1 1 を折り畳むことができ、これにより本体部 2 と蓋部 3 とを対向させることができる。

【0011】上記のようにして対向された本体部 2 と蓋部 3 とを閉じた状態のまま保持するために、蓋部 3 には側面 3 a の一部が延長された形態である蓋部係止片 3 1 が設けられている。蓋部係止片 3 1 の先端部分には係止用突起 3 1 a が外部側つまり空間部 4 の反対側を向くようにして形成されており、この係止用突起 3 1 a が、本体部 2 の側面 2 a に設けられている係止穴 2 1 に嵌まることにより、係止穴 2 1 の側面に係止用突起 3 1 a が引掛けられ、本体部 2 と蓋部 3 とが閉じた状態で保持される。尚、この係止穴 2 1 は本体部 2 の側面 2 a に貫通して設けられるものであり、係止穴 2 1 の外側から棒等を差し込み、蓋部係止片 3 1 の係止用突起 3 1 a を内側方向に押し込み、係止用突起 3 1 a を係止穴 2 1 から離すことにより、蓋部 3 を開けることができる。

【0012】ケース 1 内部に形成されている空間部 4 には、釣り糸 9 4 を巻き付けるためのスプール 9 が収納される。このスプール 9 は、図 6（ケース 1 に収納された状態の図）に示されるように、扁平な中空の円筒体 9 1 の両端面の部分に、この円筒体 9 1 の直径よりも大きい直径を有する円盤であるフランジ 9 2 が設けられるものであり、釣り糸 9 4 は、この円筒体 9 1 の側面とフランジ 9 2 によって形成される空間に巻き付けられて収納される。又、本例では両フランジ 9 2 の中心に、スプール 9 を貫通するようにして中心穴 9 3 が設けられている。

本例では、本体部 2 の端面 2 b の中心に、空間部 4 方向へ突出する第 1 係合部 6（後述）が形成されており、この第 1 係合部 6 に対して、スプール 9 の中心穴 9 3 が嵌められ、この第 1 係合部 6 を中心にしてスプール 9 が回転する。尚、糸を巻く部分、つまり円筒体 9 1 とフランジ 9 2 のみからなる、輪状のスプール 9（この場合、上記の中心穴 9 3 に相当する部分は円筒体 9 1 の内側面に囲まれる空間である。）に対してケース 1 を使用する際には、円筒体 9 1 の内側面の形状に対応する突起部をケース 1 内に別途設けることによって、ケース 1 内部でスプール 9 の位置決めをすることができ、上記の第 1 係合部 6 と同様の作用をなすことができる（図示しない）。又、第 1 係合部 6 のような突起部をケース 1 に設けずに、フランジ 9 2 の外周縁がケース 1 の内側面に対して摺動して回転するものとしても良い。

【0013】開口部 8 は側面開口部 8 a と端面開口部 8 b とからなるものである。本例においては図 1（A）等に表示されるような形態であり、本体部 2 及び蓋部 3 の各端面 2 b、3 b が所定の曲率を持つ曲線で切り欠かれており、この部分が端面開口部 8 b となっている。そして、この二つの端面 2 b、3 b に形成された端面開口部 8 b をつなぐようにして、側面 2 a、3 a も切り欠かれており、この部分が側面開口部 8 a となっている。この開口部 8 は、ケース 1 の内部にスプール 9 を収納した際に、スプール 9 の一部がケース 1 の外部に露出する部分であり、この露出したスプール 9 の一部を手で持つことによって、スプール 9 を回転させることができる。これにより、釣り糸 9 4 をケース 1 から外部に出し過ぎた際でも、スプール 9 を回転させて元の状態に戻すことができる。尚、本例において、開口部 8 は本体部 2 及び蓋部 3 の各端面 2 b、3 b において、中心を挟んで点対称になるように、各端面 2 b、3 b の両側に 2 箇所形成されるものである。開口部 8 の形状については、上記のものに限られるものではない。例えば 1 箇所のみ設けるものであっても良いし、形状についても直線や多角形状であっても良く、種々に変更して実施することができる。又、本例では、側面開口部 8 a と端面開口部 8 b とが連続して形成されているが、別個に独立させて形成するものとしてもよい。この場合、側面開口部 8 a は釣り糸 9 4 の引き出し口となり、端面開口部 8 b はスプール 9 を手動で回転させる部分となる。

【0014】本体部 2 には押圧片 5 が設けられている。この押圧片 5 は図 1（A）等に表示するように、湾曲した帯状の弾性片であり、基端部 5 1 は本体部 2 の側面 2 a の内側面に取り付けられている。尚、この押圧片 5 も本体部 2 と一体成型がなされるものである。この押圧片 5 は、側面 2 a の持つ曲率よりも大きな曲率を持つものであり、先端部 5 2 に向かうにつれて、空間 4 の中心に近づくように突出するものである。尚、本例ではこの押圧片 5 は開口部 8 の部分に設けられているため、図 1

（A）等に表示されているように、外部に露出している。又、この押圧片 5 の幅寸法は、スプール 9 のフランジ 9 2 間の内寸法よりも小さく形成されている。これにより、ケース 1 内の空間部 4 にスプール 9 を収納すると、押圧片 5 の先端部 5 2 がスプール 9 のフランジ 9 2 間に入り込み、スプール 9 の側面 9 1 に巻き付けられている釣り糸 9 4 を押圧する。この押圧により、釣り糸 9 4 はほどけることなくスプール 9 に保持される。この押圧片 5 は弾性を有するため、釣り糸 9 4 が使用につれ減少していても、釣り糸 9 4 を使い切るまで継続して押圧することができる。又、スプール 9 に対する釣り糸 9 4 の巻き方に関しては、整列巻き、乱巻き、ソフト巻きがあるが、本例の押圧片 5 は、どの巻き方のスプール 9 に対しても使用が可能である。

【0015】ここで、押圧片 5 の各部分と側面開口部 8 a との位置関係について述べる。図 6（A）に示されるように、押圧片 5 の基端部 5 1 は側面開口部 8 a の一方の端縁 8 1 a に位置するものであり、そこから押圧片 5 は側面開口部 8 a の他方の端縁 8 1 b に向けて伸びるように形成されている。本例においては、押圧片 5 の先端部 5 2 は、側面開口部 8 a の略中央部分にまで達する。この押圧片 5 の先端部 5 2 と側面開口部 8 a の他方の端縁 8 1 b との間には隙間 8 1 c が必要であり、この隙間 8 1 c から釣り糸 9 4 が引き出される。

【0016】本例では、上記のように押圧片 5 が本体部 2 及び蓋部 3 と一体に成型がなされるものであるが、これに限られず、ケース 1 とは別体で金属や樹脂からなる弾性体を取り付けるものとしても良い。又、本例では、押圧片 5 は 1 箇所に設けられているものであるが、これに限られず、図 9 に示されるように、例えば反対側の開口部 8 の部分にも設けるなどして、複数の押圧片 5 を設けるものとしても良い。又、押圧片 5 を図 10（A）に示されるように形成し、この先端部 5 2 の部分に図 10（B）に示されるように糸通し穴 5 3 を設け、この部分から釣り糸 9 4 を外部に引き出すものとしても良い。本例の押圧片 5 においては、糸通し穴 5 3 よりも基端部 5 1 寄りに位置する押圧部 5 4 がスプール 9 に巻かれた釣り糸 9 4 を押圧している。又、押圧片 5 の側面には、糸通し穴 5 3 に達するように切り込まれた糸導入路 5 3 a が形成されており、ここから釣り糸 9 4 を糸通し穴 5 3 に通すことができる。更に、この糸通し穴 5 3 の内側面に刃を設け、この位置で糸を切ることができるようにしても良い。

【0017】本例においては、複数のケース 1 同士を連結するために、本体部 2 の端面 2 b に第 1 係合部 6 が、蓋部 3 の端面 3 b に第 2 係合部 7 がそれぞれ形成されている。これらの係合部 6、7 は各端面 2 b、3 b の中心にそれぞれ設けられている。

【0018】第 1 係合部 6 は、図 1（B）及び図 4（A）（B）に示されるように、ケース 1（本体部 2）

の外部から見た場合、空間部4の方向に凹むように形成されている。そしてこの第1係合部6には係止爪61が設けられている。この係止爪61は、本体部2の端面2bが延長されるようにして凹みの部分に突出している部分であり、図1(B)上での水平線Lを基準とすると、35°傾いて位置している。尚、この第1係合部6は、空間部4側からみた場合は、上記とは正反対の形、つまり突出した形態を呈しているわけであるが、本例においては、上記のようにここにスプール9の中心穴93が収まり、この部分を中心としてスプール9の回転ができるようになっている。

【0019】第2係合部7は、図1(A)及び図4

(A)(B)に示されるように、ケース1(蓋部3)の外側から見た場合、外側に対して突出するように形成されている中空の円筒状の突起である。この突起の端面71の外縁部分に、2箇所の係止爪通過穴72が設けられている。この係止爪通過穴72は、図1(A)上での水平線Lと一致するように設けられている。つまり、上記の第1係止部6の係止爪61と第2係合部7の係止爪通過穴72とは、所定角度、この例では35°ねじれた位置関係にある。又、図2(A)(B)に示されるように、この係止爪通過穴72と隣接するようにして係止爪受部73が設けられている。これは、図1(A)上の水平線を基準とすると、35°の傾きを持って位置するものであり、第1係合部6の係止爪61に対して空間部4を挟んで対向している。第2係合部7において、係止爪通過穴72と係止爪受部73との部分では、図2(A)

(B)に示されるように、円筒体の側面が省略された状態となっている。これは後述のように、係止爪61を係止爪通過穴72に入れて係止爪受部73へ、ケース1の回転により移動させる際において、円筒体の側面が干渉しないようにするためである。

【0020】次に、実際にケース1同士を連結する方法について述べる。まず、一方のケース1の第1係合部6と他方のケース1の第2係合部7とを対向させる。この際、各ケース1間を35°傾け、第1係合部6の係止爪61と第2係合部7の係止爪通過穴72とが一致するようにする。そして、係止爪通過穴72に対して係止爪61を通し、各ケース1を35°回転させると、これに伴い、係止爪61は係止爪通過穴72から隣接する係止爪受部73に移動する。係止爪受部73に係止爪61が引っ掛かった状態においては、上記と逆の方向にケース1を回転させない限りは、両者61、73が外れることがないため、2つのケース1の連結が維持される。上記は2つのケース1の連結方法について述べたものであるが、3つ以上のケース1を連結する際にも、上記と同様の方法で行うものである。尚、図7は3つのケース1を連結した状態を示す断面図である。

【0021】複数のケース1同士の連結に関しては、上記に説明したものに限られるものではなく、種々の形態

で実施することができる。上記のように、ケース1同士をねじることによりケース1の脱着を行う形式においても、端面2b、3bの中心を外れた位置に凹部と凸部とを設けるものとしても良く、又、側面2a、3aに、例えば板状の係合部を設けるものとしても良い。又、比較的軟質の材料を用いて、一方に設けられた凹部に引掛部を設けた突起を挿入して固定させるものとしても良い。又、図11に示されるように、ケース1に設ける係合部を、端面2b、3bの両側とも同じ形態を持つものとし、別体として接続用プラグ12を形成し、この接続用プラグ12を介してケース1同士の接続を行うものとしても良い。この接続用プラグ12に形成される係合部は、凹凸によるもの等、上記に示したような種々の形態で実施できる。つまり、凹部と凸部とを組み合わせることで一方のケース1と他方のケース1とを係合するものであれば、種々の形態で実施が可能である。

【0022】上記に説明したものの他に、本願発明は種々に変更して実施することが可能である。例えば、本体部2と蓋部3とについて、上記のような一体成型品ではなく、それぞれが別々に成型されたものであっても良い。この場合、本体部2と蓋部3とは、嵌合や螺合により組み合わされる。又、材質についても、樹脂に限られず、例えば金属や紙粉等の圧縮成型品等、種々に変更して実施が可能である。又、図8に示されるように、上記のような連結式のものではなく、空間部4を広げることで、複数のスプール9を1つのケース1の内部に収納するものとしても良い。尚、この形態のケース1においても、既に述べたように、押圧片5を図8上では設けられていない側の開口部8にも設ける等、種々に変更して実施することができる。又、ケース1に刃を設けておき、引き出した釣り糸94を切ることができるようにも良い。又、ケース1の表面や押圧片5の表面に釣り糸の号数等を表示する部分を設けるものとしても良い。

【0023】このケース1とスプール9との販売形態に関しては、ケース1を単独で販売するものとしても良いし、スプール9をケース1内にあらかじめ収納しておき、セットで販売するものとしても良い。又、本願発明は、釣り糸のケースに限られるものではなく、裁縫用の糸を巻きつけるための糸巻きや、紐や電線を巻くためのリールに対しても応用が可能である。

【0024】

【発明の効果】本願発明によれば、ケースに設けられる押圧片により、スプールに巻きつけられた糸が押圧されているため、糸がスプールから外れてしまうことがなく、それにより糸がもつれてしまうことがない。又、ケースに開口部が設けられていることにより、スプールを手で回転させることができる。上記により、使いやすいスプール収納ケース及びケース入りスプールを提供することができる。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】本例のスプール収納ケースの外観を示す図であり、(A)は正面図、(B)は背面図である。

【図2】本例のスプール収納ケースの外観を示す図であり、(A)は左側面図、(B)は右側面図である。

【図3】本例のスプール収納ケースの外観を示す図であり、(A)は平面図、(B)は底面図である。

【図4】(A)は図1(A)のA-A断面図であり、(B)は図1(B)のB-B断面図である。

【図5】ヒンジを示す要部拡大断面図である。

【図6】本例のスプール収納ケースにスプールを収納した状態を示す図であり、(A)は正面図、(B)は底面図である。

【図7】本例のスプール収納ケースを3個連結した状態を示す断面図である。

【図8】本願発明に係るスプール収納ケースの他の実施例を示す図であり、(A)は正面図、(B)は底面図である。

【図9】は本願発明に係るスプール収納ケースの他の実施例を示す正面図である。

【図10】(A)は本願発明に係るスプール収納ケースの更に他の実施例を示す正面図であり、(B)はその底

面図である。

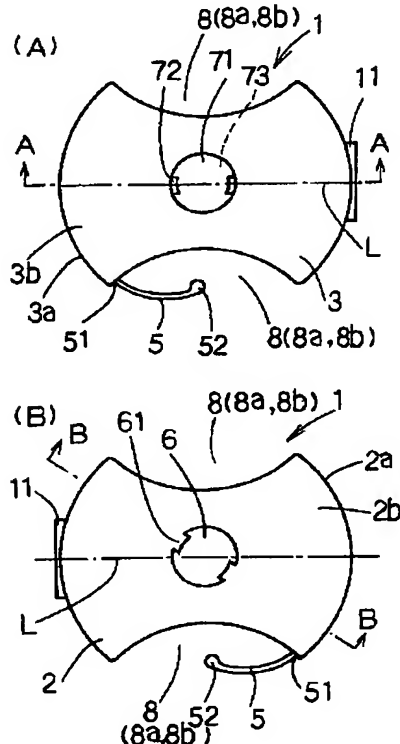
【図11】本願発明の他の実施例に係るスプール収納ケースを3個連結した状態を示す断面図である。

## 【符号の説明】

- |     |             |
|-----|-------------|
| 1   | スプール収納ケース   |
| 2 a | (本体部) 側面    |
| 2 b | (本体部) 端面    |
| 3 a | (蓋部) 側面     |
| 3 b | (蓋部) 端面     |
| 4   | 空間、空間部      |
| 5   | 押圧片         |
| 5 1 | (押圧片) 基端部   |
| 5 2 | (押圧片) 先端部   |
| 6   | 第1係合部       |
| 7   | 第2係合部       |
| 8 a | 引き出し口、側面開口部 |
| 8 b | 端面開口部       |
| 9   | スプール        |
| 9 1 | 円筒体         |
| 9 2 | フランジ        |
| 9 4 | 糸、釣り糸       |
| 1 0 | ケース入リスプール   |

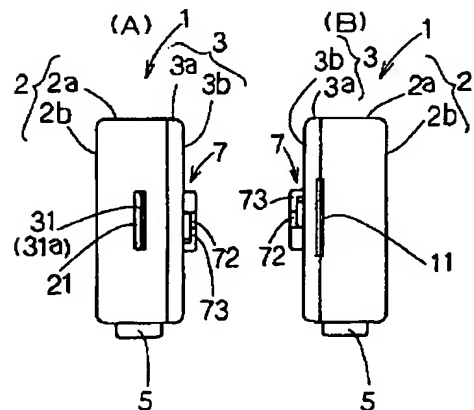
【図1】

FIG 1



【図2】

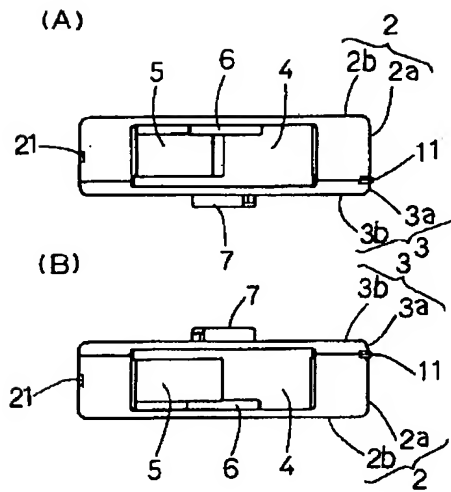
FIG 2





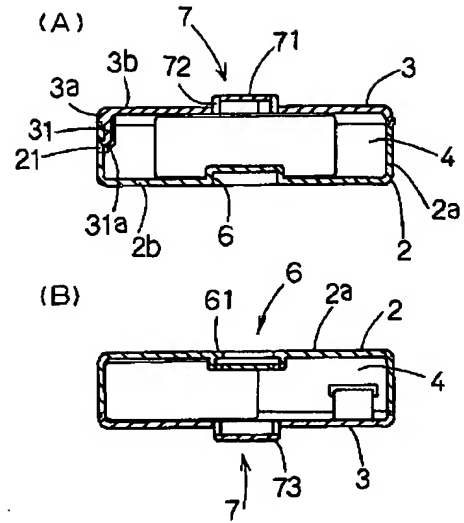
【図3】

FIG 3



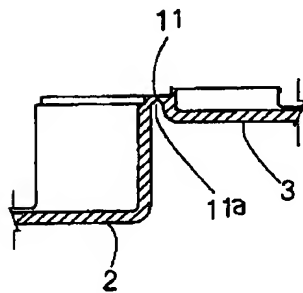
【図4】

FIG 4



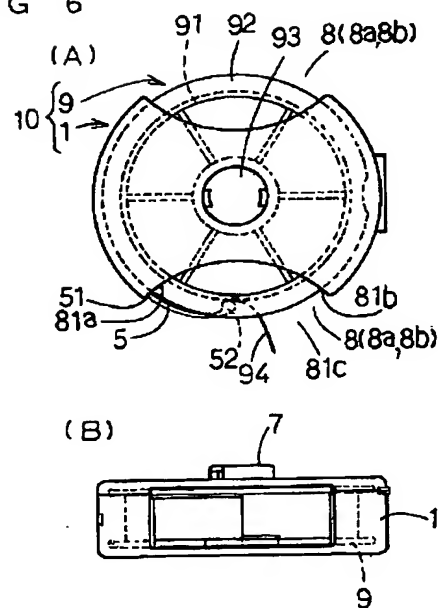
【図5】

FIG 5



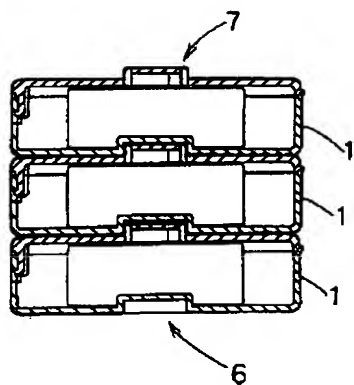
【図6】

FIG 6



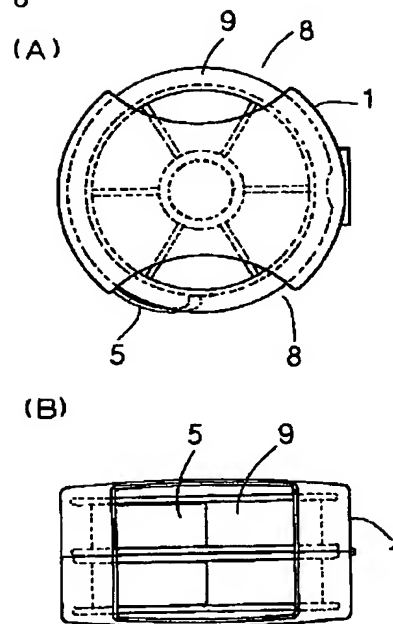
【図7】

FIG 7



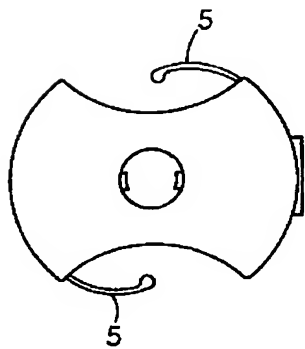
【図8】

FIG 8



【図9】

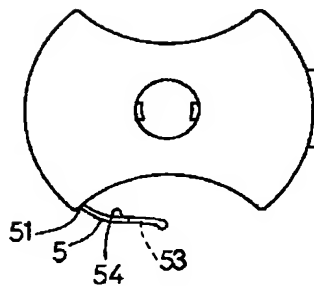
FIG 9



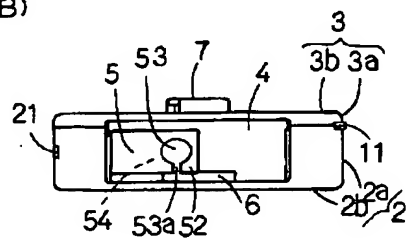
【図10】

FIG 10

(A)



(B)



【図11】

FIG 11

